

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

10～12月の需要期を迎えるにあたり、各船社が10月に北米発アジア向けの貨物に対しGRI（海上運賃一斉値上げ）の通知をしています。10月は概ね回避となりましたが、11月は空コンテナが不足しがちなPNW（太平洋西岸北部）を中心に強行する船社が出てくると見られており、今後の動向が注目されます。

ビートパルプ

<米国产>

日本向けの主産地であるミネソタ州及びノースダコタ州では8月17日以降、順次新穀の製糖作業が始まっています。一部の産地では単収の微増を予想していたものの、収穫の進捗が進むにつれ、生育期の早魃の影響を予想以上に受けていたことが判明しました。このため最終的な収量をやや下方修正していますが、日本向けの輸出货量に大きな影響はないと見られ、全体としては昨年並みの収量を確保できると予想しています。

昨年輸出が解禁された中国向けは、新穀の供給を前に非常に引き合いが強くなっており、新穀では10万トン程度の需要が見込まれています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地コロンビアベースンでは、比較的安定した天候のなか4番刈の収穫が終盤を迎えており、南部の一部圃場では5番刈の収穫が行われています。多くの3番刈、4番刈は、降雨被害はほぼなく、総じて分析値は高いものの8月中旬以降ワシントン州北部で発生した山火事による煙の影響でウィンドローの時間が長くなっており、色抜けや変色（ブリーチ）が多い中級品の発生が中心となっています。

産地価格については、引き続き米国内酪農家が積極的に高成分の上級品の買付を進めていること、また、中国からの引き合いも徐々に回復してきていることを背景に、上級品から低級品まで昨年に比べ高値で取引が行われています。



ワシントン産アルファルファ3番刈（9月中旬撮影）

オレゴン州

現在南部クラマスフォールズ、中部クリスマスバレー共に3番刈を終え、クラマスフォールズの早い圃場では4番刈が進行中です。両地域とも3番刈は収穫期間中に降雨があり、例年より作業の進捗が遅くなっているようです。また、雨あたり品も成分が高ければ米国内向けに高値で売れているとのことで、相場を下支えしており通常品の価格も強含みの展開が予想されます。

カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは7番刈の収穫が進んでいます。当地でも気温は徐々に穏やかになってきており、それに伴って成分や品質も良化しています。このため、高成分品を求める国内酪農家からの引き合いも回復しているようです。

産地価格については、引き続き強含んだまま堅調に推移しています。

米国産チモシー

ワシントン州では2番刈の収穫がほぼ終了しています。ワシントン州北部で発生した山火事の煙は主産地であるコロンビアベースンおよびキティタスバレーの上空を覆っており、通常よりもウィンドローの時間が長くなっており（圃場での乾燥時間が長くなる）、2番刈は茶葉、ブリーチの割合が高い中～低級品の発生が中心となっています。2番刈の作付面積は1番刈の価格が好調であったことから、多くの生産農家は他の作物へ転作せずにそのままチモシーの生産を続けており、昨年よりも全体の生産量は増える見込みです。

チモシーの需要は日本および韓国から引き続き旺盛であり、産地価格は強含んだまま堅調に推移しております。



ワシントン産チモシー 2 番刈（9月中旬撮影）

カナダ産チモシー

アルバータ州中部クレモナ地区においてもチモシーの収穫作業はほぼ終了しています。南部レスブリッジ地区と同様、収穫期の天候に恵まれ、発生量の50%以上が上級品で、中級品以下の発生量は限られた状況となっています。

また、日本および韓国からの需要が引き続き堅調なことから、産地相場は強含みで推移しております。特に発生量が限定的な中級品以下のグレードは上級品以上の値上がり幅で取引されています。



（クレモナ産チモシー 上級品）



（クレモナ産チモシー 中級品）

スーダングラス

インペリアルバレーにおけるスーダングラスの作付面積報告によると、9月15日現在の作付面積は約13,449エーカーと昨年同期比184%となっています。現在産地では、2番刈の収穫が終盤を迎えていますが、今年の2番刈は総じて茎が太く、一部では降雨の被害もあり低級品が中心となっています。

北カリフォルニアでも現在刈り取りが終盤を迎えています。多くの圃場では、8月

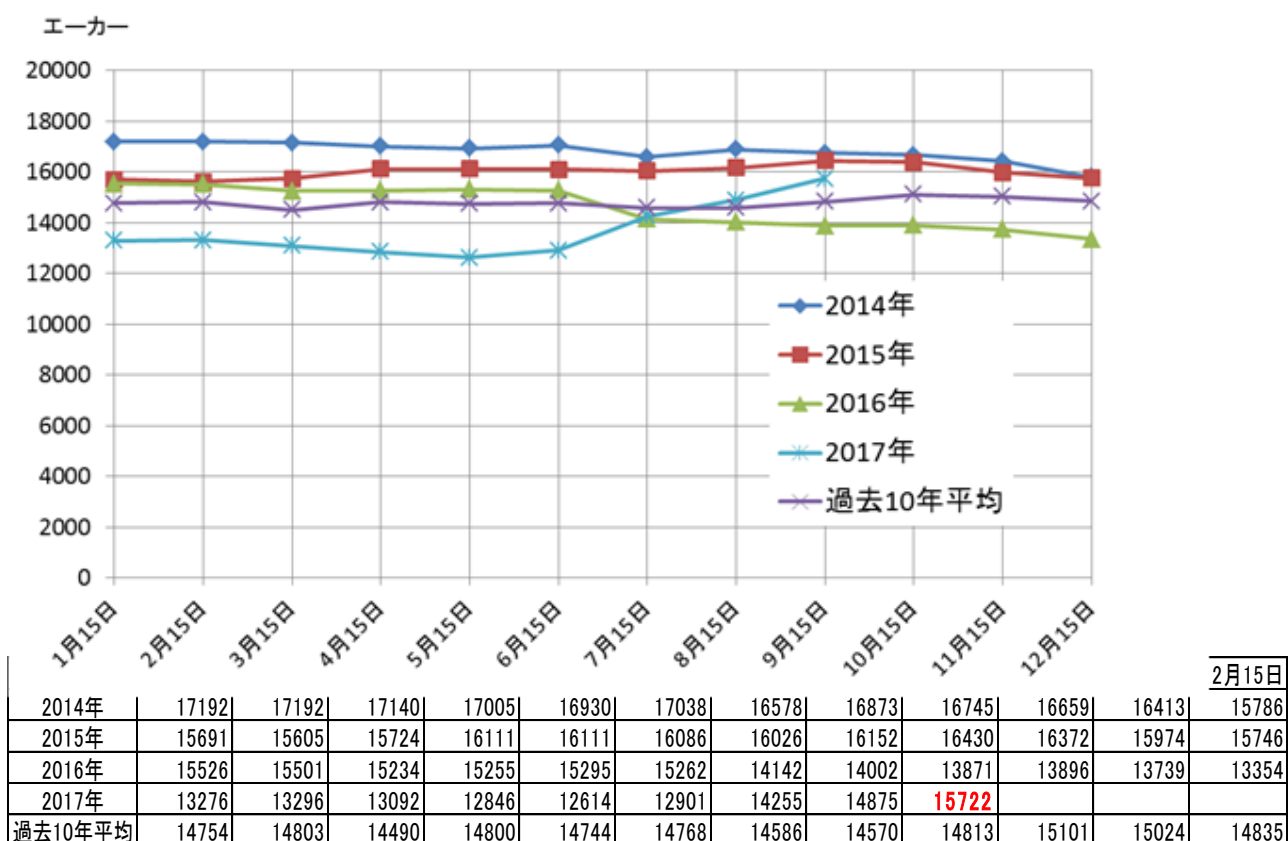
上旬頃から収穫作業が始まり、9月下旬現在までに約80%が刈り取りを終えています。品質面では総じて収穫時の気温が例年より高く且つ湿度が低かったため、色抜けしたソフトなスーダンの発生率は下がっているようです。



北カリフォルニア産スーダン圃場(9月中旬撮影) 北カリフォルニア産スーダンプレミアム

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では現在5番刈が終盤を迎えています。今年は収穫開始から作付面積が減り続けたため全体の生産量は減少しています。7月から作付面積は回復し、9月15日に発表された作付面積では15,722エーカー、前年比113%と引き続き増加していますが、韓国からの需要は引き続き旺盛で、産地価格は軟化する様子がありません。



ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地オレゴン州ウィラメットバレーではペレニアルライグラス、フェスキューともに収穫作業は終了しました。収穫は順調に進捗し、品質面の問題はないようですが、作付面積が減少していること、また、韓国からの需要が引き続き旺盛なこととも影響し、産地相場は価格が高騰したまま堅調に推移していくものと思われます。

豪州産オーツハイ

西豪州では7月末まで降雨不足のあと、7月下旬から8月上旬にかけての十分な降雨があったため収量が注目されていましたが、現在のところ例年の70～80%程度の4トン/ヘクタール前後ではないかと見られています。北部地域ではすでに多くの圃場で刈り取りを終えています。今後の天候も安定していることから北部地域では上級品が多く発生することが期待されますが、全体の作柄や収量が見えてくるにはあと数週間様子を見る必要がありそうです。

南豪州は西豪州同様、例年より若干少ない単収が見込まれており、現在およそ70%程度が刈り取りを終えています。

東豪州は最北部の地域では、刈り取りが開始され早い圃場ではすでにベーリングまで終えているようです。今のところ雨にも当たっておらず、単収も例年並みではないかと予想されています。

新穀の価格については今後相場が形成されていくと思われますが、旧穀在庫が少ない上級品と在庫が多い低級品とは異なる値動きとなることが予想されます。



（西豪州北部 オーツハイ圃場 9月16日撮影）

以上

